



未亡人 塔子
~秘められた肉欲~

山々に囲まれた田舎町「亜乃山」
私はここで生まれ、小学生の頃に
都会に引っ越した

生まれ故郷ではあったけど
大人になるにつれて記憶からは
薄れていっていた

そして、結婚をして夫が喫茶店を
開くことになった時、
この亜乃山の空き店舗を
夫が目にした

亜乃山のことを気に入った夫は
すぐにここにお店を開くことを決めた
夫の淹れる珈琲が美味しいと
口コミで広がり、お店は繁盛した



でも……しばらくして夫は
事故で他界してしまつた……

残された私は、息子の幸宏を
養つていくためにお店を閉めて
普通に働くことも考えました

でも、夫の残したこのお店を見捨てることが
どうしても出来ませんでした……
無謀とは分かりつつも、私はこの喫茶店で
生計を立てようと決心しました



でも…夫の珈琲の味を再現
できない私では軌道に乗らず
経営は傾いていく一方でした

いらっしやいませー！

ほほ、今日も美しいですな
塔子さん



亜乃山の大部分の土地を持つ地主の
馬場さん…毎日のように通ってくれる
そして、何度か再婚しないかという
申し出もされている…
全部断ってしまっているけれど…

お前…また来たのかよ！
もう来るなって言っただろ！
母ちゃんはお前とは結婚しないぞ！

再婚しないのは、息子が夫以外の人を
父親にすることを良く思わないこと
それに…私も夫以外の人を
愛することは出来ないから…



幸宏！馬場さんはお客様なんだから
そういう口のききかたはやめなさい！

申し訳ありません、馬場さん…
あとでもっと言って聞かせますので…



今日の売上も良くなかったな……
このままいくと、銀行に借りている
お金を返すことも困難になる……

私はこのままシングルマザーとして
生きていくって決めたんだ……
幸宏と、夫の残してくれたお店……
それを守るために人生を捧げる……
でも……このままだと生活出来なくなつて
その二つを失うかもしれない……

きっと、馬場さんと再婚すれば
これからの生活の不安は消える……
でも……それでもやっぱり夫以外の
人と一緒になるのは無理だった……

あなたさえ生きていてくれれば
こんな不安吹き飛ばしてくれるのに……

篤郎さん……



そして、数日後……
予想もしていなかった
ことが起きてしまった

ええ……我が社の社長が
この土地の出身でしてね
ぜひここで喫茶店事業を
やりたいとのこと……

このお店を……
買取……ですか？

こちらの経営状況は把握していますので
悪い話ではないと思いますよ
借金もなくなって当面の生活費も工面
できると思います……
どの道このままでは破綻する店でしょう？

拒否したいのであれば、銀行に
借りている借金を直ちに返済
することが条件です

そ、そんな……
完済だなんて……
急にそんなこと……

向こうも返ってこないのでは
ないかと不安がっているんですよ
このまま行けば債権譲渡になるはずですよ
そうなれば銀行側も損じかしらない……

うちに任せてくれればすぐにでも
支払うことができるのでね……
どちらの味方につくかは容易に
想像できるでしょう……？

買収に応じることになれば
店名や内装は一新する
もう、主人の作ったお店では
なくなることを意味していた

私は、どうしても条件を
飲むことができなかった……
こんな時に頼れる人は
馬場さんしかいなかった……

まあ、私であれば塔子さんの抱えている
負債をなくすことは容易いですよ

ただ、私にそれを頼むということが
どういうことかお分かりですか？
私は貴方に何度もプロポーズをして
断られています



こんな時だけ私の気持ちを利用して
無条件で助けてもらうというのは
いささか虫が良すぎるのでは……？

……はい。
もちろん分かっています
それなりの覚悟を持って
ここにきたつもりです

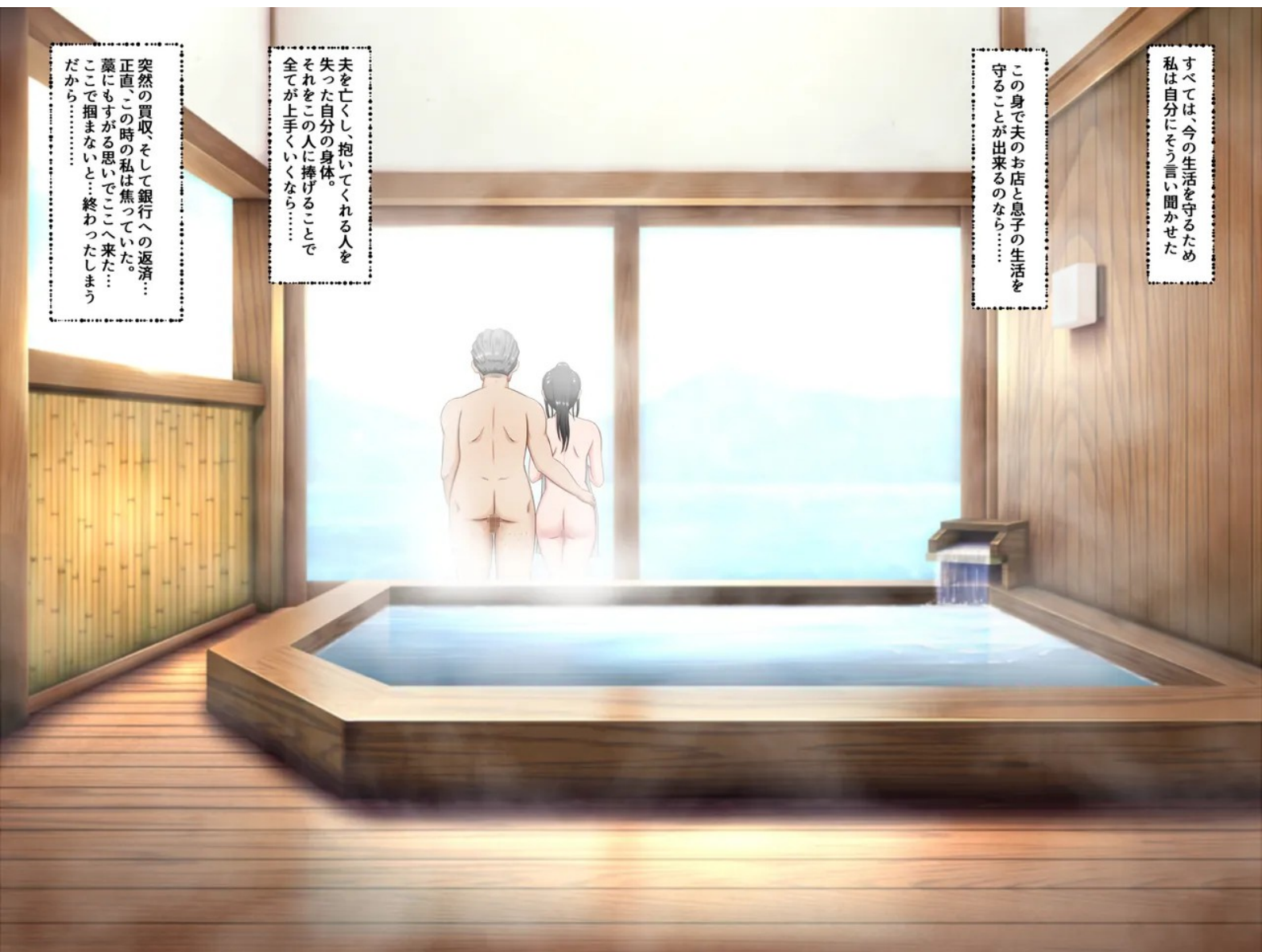


すべては、今の生活を守るため
私は自分にそう言い聞かせた

この身で夫のお店と息子の生活を
守ることが出来るのなら……

夫を亡くし、抱いてくれる人を
失った自分の身体。
それをこの人に捧げることで
全てが上手くいくなら……

突然の買収、そして銀行への返済……
正直、この時の私は焦っていた。
薬にもすがらる思いでここへ来た……
ここで掴まないと……終わってしまった
だから……





おは、

おは、

ほほ…夢でも見ているようですよ
何度プロポーズしても断られた
貴方と裸の付き合いができるとは…

これは、再婚の方も期待して
よろしいのかな？

さ、再婚は…申し訳ありません…
私は、夫以外の人とはもう……

私に抱かれるのも、全てはもう存在していない
旦那さんの店を守る為……ですか
まあ、私は貴方が手に入るのなら手段は選びません
そろそろタオルも外してはいかがですか？





おお……ほほ……
何度この姿を想像したことか……
やはり美しい……
この身体を持て余すのはあまりにも
勿体ないことですよ、塔子さん……

……もう、いい歳をした女です
こんな身体に価値なんて……

あるんですよ……
それで貴方の負債はチャラになるんです
あの店が買取されることも、借金に
悩むこともなくなる……

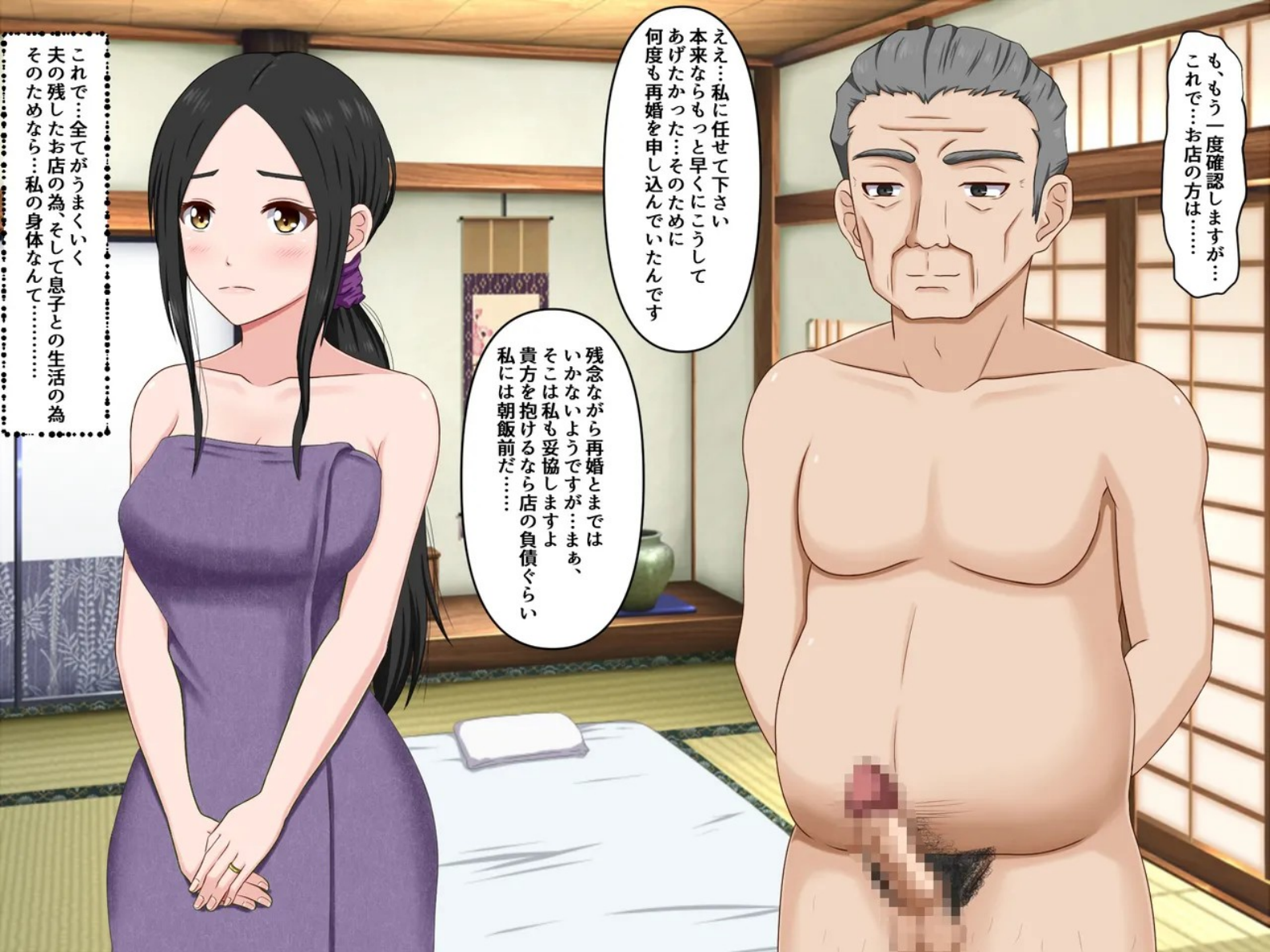
私にとってはいくら金を積んでもいいと
思える価値のある身体だ……
味わうのが楽しみですよ、塔子さん……

も、もう一度確認しますが……
これで……お店の方は……

ええ……私に任せて下さい
本来ならもつと早くにこうして
あげたかった……そのために
何度も再婚を申し込んでいたんです

残念ながら再婚とまでは
いかないようですが……まあ、
そこは私も妥協しますよ
貴方を抱けるなら店の負債ぐらい
私には朝飯前だ……

これで……全てがうまくいく
夫の残したお店の為そして息子との生活の為
そのためなら……私の身体なんて……







ほれ：どんどんいやらしい音が
大きくなってきたいますよ
まるで身体が喜んでいようだ

じゅじゅ

じゅじゅ

ぐちゃぐちゃ
ぬちゅ
ぐちゅ

ぐちゃぐちゃ

あんっあつだめ：そ、そんな…
久しぶりだからって：こんなにな…
んっ、馬場さん、これ以上は：ああん！





さ…次は私が塔子さんを
味わう番ですよ…

え…わ、私のは
別に……

ほほ…そう遠慮なさらずに…
私の顔にまたがってください

ちゅぽ





ほほ：どうやらご満足頂けたようです
とても色っぽい顔をしていらつしやる
まさか塔子さんのそんな表情を
見ることができるとは……

はあ

はあ

はあ

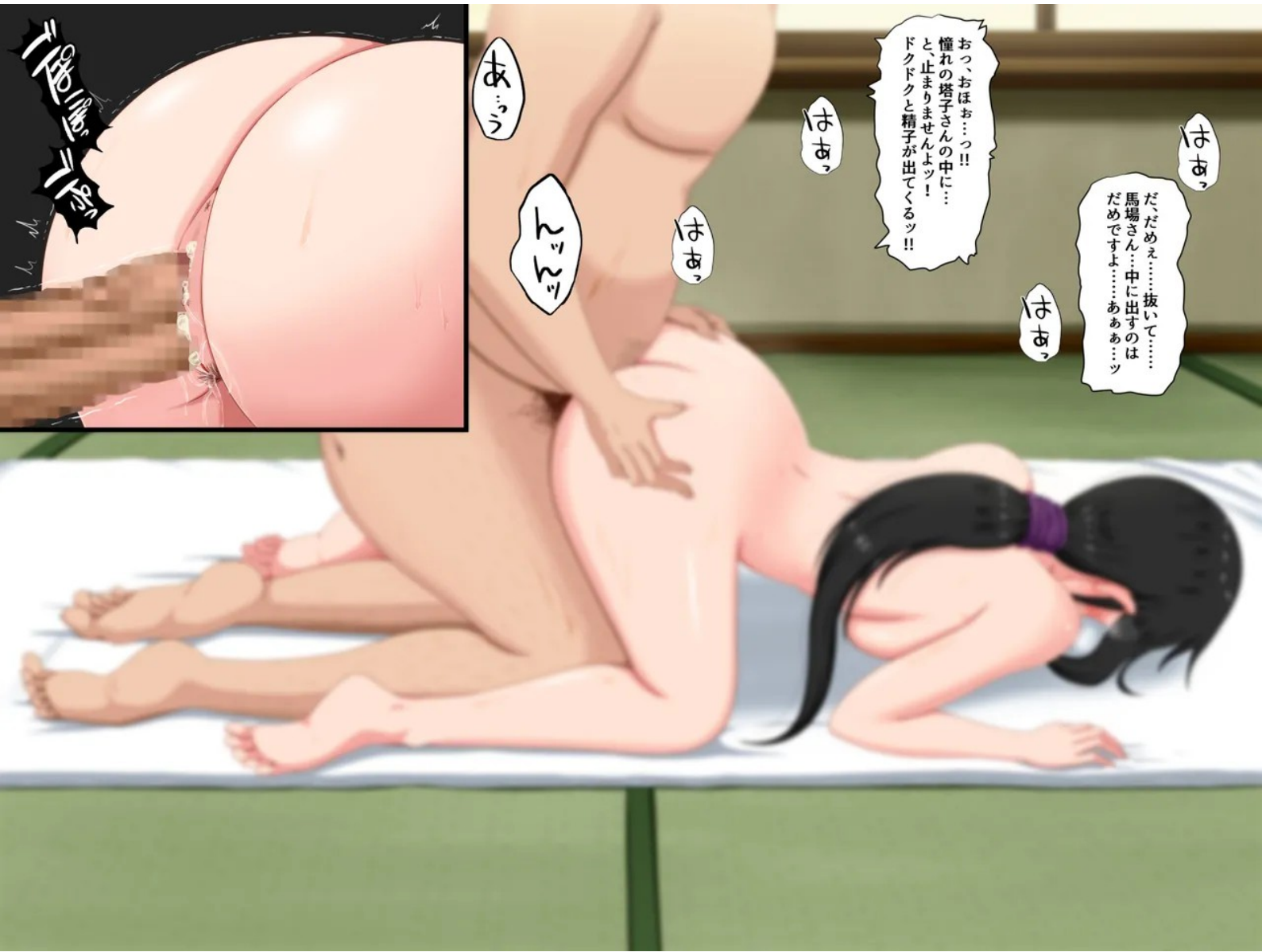
はあ
はあ

はあ

イカされて…しまった……
少し口でされただけなのに…私……
ひ、久しぶり…だから……？
私…気付かないうちにこんなに
性欲が……







あーっ

とーとー

はあ

はあ

おっ、おほおっ!!
憧れの塔子さんの中に...
と、止まりませんよッ!
ドクドクと精子が出てくるッ!!

はあ

だ、だめえ...抜いて...
馬場さん...中に出すのは
だめですよ...あああ...ッ

はあ

ひ、ひどい……中に出すなんて……
私……こまでするつもりは……

むほほ……こちらの要求は再婚
だったんですよ……？
それをこれで妥協したんです……
店も守れて借金もチャラになると
考えればこれぐらいして頂かないと……

大丈夫……こんな爺の精子では
そう簡単には孕みませんよ……
さ……抜きますよ……ツ

んはあ……



数年ぶりのセックス…そして
息子が出来て以来の中出し…
久しぶりに…自分が女として
扱われている…

身体が…満たされているのを
感じる…私…まだ
こんなにも性欲があったんだ…
もうないものだとはばかり…

はあ…はあ…まだ夢を
見ている気分ですよ…
塔子さんに中出しできる
とはねえ…

ほほ…年甲斐もなく
興奮してまだピンピンに
なっていますよ…



はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

ほら：ギンギンに
なっているのが
わかるでしょう？

はあ、

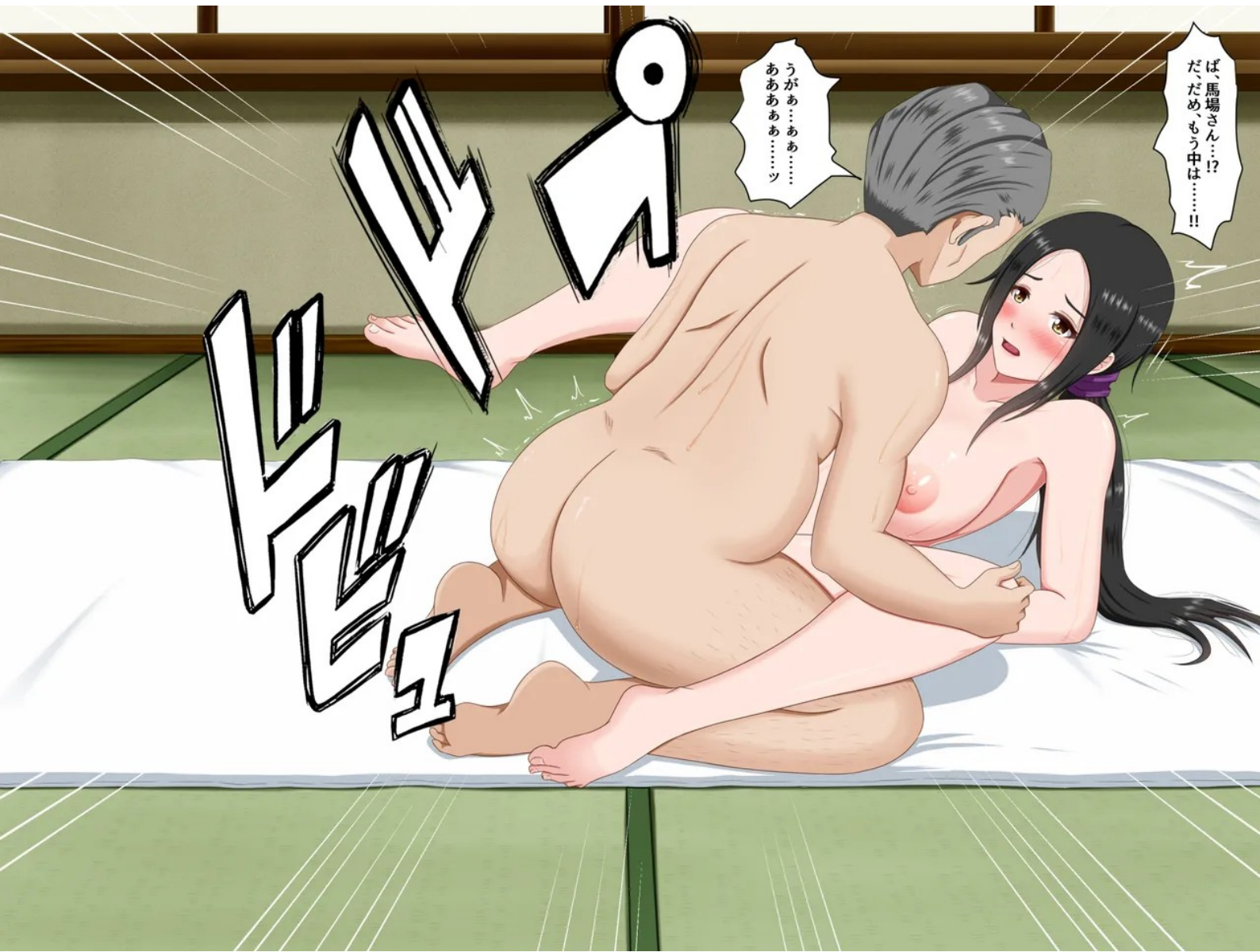
ん……ば、馬場さん……
も、もう……したので……
これ以上は……

はあ、

はあ、

つれないことを
言わないで下さい：培子さん
せめてこの玉袋に溜まっている
精液は出してもらわないと困りますよ





うがぁ...あぁ...
あぁあぁ...ツ

ば、馬場さん...!?
だ、だめ、もう中は...!!

ツ
ツ
ツ
ツ
ツ

この後も、休憩しては
体を重ねて...
行為を繰り返した...
でも、これで全て解決する
お店も、生活も守れるから...



ほほ…溜まっていたものを
全て塔子さんの中へ出せました…
約束通り店のことは任せて下さい

今後とも良い付き合いをしましょうね
まさかあの額を一度きりのセックスで
済ませるおつもりではないでしょうか？

え…でも…
もう…これで…

世の中そんなに甘い
ものではありません…
私と再婚しないので
あれば、それぐらいは
してくれないと貴方を
救えませんよ…

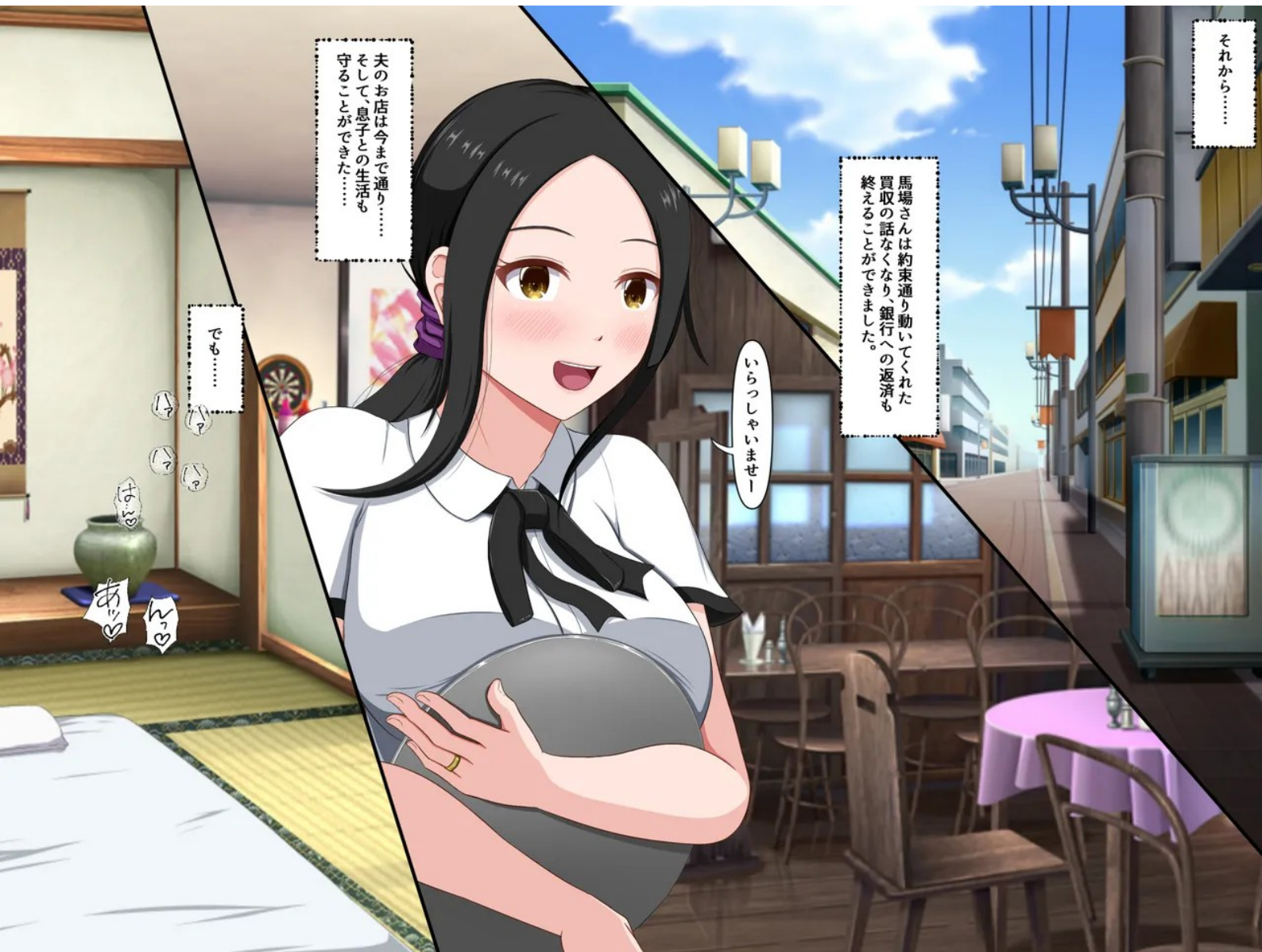
お、お

お、お

お、お

そ、そんな…





それから……

馬場さんは約束通り動いてくれた
買取の話なくなり、銀行への返済も
終わることができました。

いらっしやいませー

夫のお店は今まで通り……
そして息子との生活も
守ることができた……

でも……

ハハ
ハハ
ハハ

おっ
おっ
おっ

あの人のお店を守るため
生活を守るため……
いつの間にか私はそれを
言い訳にして馬場さんと
セックスすることを
正当化していた

再婚はしない……
あの人を失ってから
心に決めていたこと

でも……馬場さんの言う通り……
妊娠して再婚する日は……
そう遠くないのかもしれない

あああああ

あッ♡

はあッ

はあッ

あッ♡

あッあ

あッう

はあッ

はあッ

はあッ

はあッ

はあッ

はあッ

はあッ

はあッ





はあ、

はあ...

ば、馬場さん...
明日も...来ても
いいでしょうか...?

はあ、

ほほ...もちろんです
毎日塔子さんと
セックス三昧できるなんて
夢のような生活ですねえ...



山々に囲まれた田舎町「亜乃山」
私はここで生まれ、小学生の頃に
都会に引っ越した

生まれ故郷ではあったけど
大人になるにつれて記憶からは
薄れていっていた

そして、結婚をして夫が喫茶店を
開くことになった時、
この亜乃山の空き店舗を
夫が目にした

亜乃山のことを気に入った夫は
すぐにここにお店を開くことを決めた
夫の淹れる珈琲が美味しいと
口コミで広がり、お店は繁盛した



でも……しばらくして夫は
事故で他界してしまつた……

残された私は、息子の幸宏を
養つていくためにお店を閉めて
普通に働くことも考えました

でも、夫の残したこのお店を見捨てることが
どうしても出来ませんでした……
無謀とは分かりつつも、私はこの喫茶店で
生計を立てようと決心しました



でも…夫の珈琲の味を再現
できない私では軌道に乗らず
経営は傾いていく一方でした

いらっしやいませー！

ほほ、今日も美しいですな
塔子さん



亜乃山の大部分の土地を持つ地主の
馬場さん…毎日のように通ってくれる
そして、何度か再婚しないかという
申し出もされている…
全部断ってしまっているけれど…

お前…また来たのかよ！
もう来るなって言っただろ！
母ちゃんはお前とは結婚しないぞ！

再婚しないのは、息子が夫以外の人を
父親にすることを良く思わないこと
それに…私も夫以外の人を
愛することは出来ないから…



幸宏！馬場さんはお客様なんだから
そういう口のききかたはやめなさい！

申し訳ありません、馬場さん…
あとでもっと言って聞かせますので…



今日の売上も良くなかったな……
このままいくと、銀行に借りている
お金を返すことも困難になる……

私はこのままシングルマザーとして
生きていくって決めたんだ……
幸宏と、夫の残してくれたお店……
それを守るために人生を捧げる……
でも……このままだと生活出来なくなつて
その二つを失うかもしれない……

きっと、馬場さんと再婚すれば
これからの生活の不安は消える……
でも……それでもやっぱり夫以外の
人と一緒になるのは無理だった……

あなたさえ生きていてくれれば
こんな不安吹き飛ばしてくれるのに……

篤郎さん……



そして、数日後……
予想もしていなかった
ことが起きてしまった

ええ……我が社の社長が
この土地の出身でしてね
ぜひここで喫茶店事業を
やりたいとのこと……

このお店を……
買取……ですか？

こちらの経営状況は把握していますので
悪い話ではないと思いますよ
借金もなくなつて当面の生活費も工面
できると思います……
どの道このままでは破綻する店でしょう？

拒否したいのであれば、銀行に
借りている借金を直ちに完済
することが条件です

そ、そんな……
完済だなんて……
急にそんなこと……

向こうも返ってこないのでは
ないかと不安がつているんですよ
このまま行けば債権譲渡になるはずですよ
そうなれば銀行側も損じかしらない……

うちに任せてくれればすぐにでも
支払うことができるのでね……
どちらの味方につくかは容易に
想像できるでしょう……？

買取に応じることになれば
店名や内装は一新する
もう、主人の作ったお店では
なくなることを意味していた

私は：遂方に暮れた
急にこんなことになってしまって
自分一人ではどうしようもないと
分かりきっていた

はあ……
とりあえずお風呂入ろう…

でも、夫を亡くして一人で
やってきた私に頼れる人はいない
……唯一、馬場さんならという
考えは過ぎった

ううん……だめ……
あの人を頼れば：今後再婚を
申し込まれた時に断れなくなる
私は：もう夫だけと決めているから……
だから：馬場さんにも頼れない……



解決策がないまま……
数日過ぎたある日……

no.1

いらつやいませー!
……あ、あれ……貴方は……

先日はどうも……
私、富田と申します
今日は、仕事で来たわけでは
ありませんよ

お、お客様として……
ですか……?

……それも少し違うな
あなたを助けに来た……
とでも言いますしうか

わ、私を……助ける……?



と、富田さん…!?
なにを…!!

まさかこんな田舎町の喫茶店に
あなたのような魅力的な女が
いるとは思わなかったよ…
私は、今回の件について全ての
決定権を委ねられているんです

決定…権…?

私を買収するに値しないと
上に報告すれば…
今回の買収の件は何もなかった
ことに出来るというわけです…

と、富田さん…
それは…つまり…

あなたも大人なら分かるでしょう…?
近くに部屋を確保しました…
込み入った話は、今晚そこで…



母ちゃん
俺もう寝るぞー

う、うん、おやすみなさい

あれ、母ちゃんは寝ないのか？
いつもはもうパジャマなのに…

お店のことぢよつとね
でもお母さんもすぐに寝るわよ
また明日ね、幸宏…

変なのさ
まあいいや、おやすみさ

私は、息子が深い眠りに
つくのを待って
外へと出た……



来てくれると思っていましたよ
塔子さん……

あ、あの……本当にお店のことは……

ここに来たということとは
そういうことだろうか？
まさか話し合いでどうにか
なると思ってきたわけでは
あるまい……

……私……もう夫以外の人と
再婚をするつもりは……

再婚……？く、そんなものに
興味はないよ……
私が欲しいのは、その熟れて
使い道を失っているカラダだ

か、からだ……
それだけ……ですか……？

馬場さんを頼れば、必ず
再婚の話が出てしまう……
この人が求めているのは
その場限りの関係……
それで……全てが……



役得とはまさにこのことだ…
あなたのように切羽詰まった女性は
こうして応じてくれるからなあ

わ、私以外の人も…
こういうことを……

若さと勢いで自分の店を開く女は多い…
だが、経営は生易しいものではない…
ほとんどが失敗して立ち行かなくなる

だから私の会社を買収してほしくて
体を許す女が多いんだよ…
決定権を持っているのは私だからね
気に入られようとみんな必死だ…

あなたのように手を引かせるために
抱かれに来る女は珍しいよ…
買収されれば生活も楽になるというのに



あのお店は…私の全てです
だから失うわけにはいきません…
他の誰かのものになるくらいなら…

くく…こうして私に抱かれて
借金苦の生活を続けたいと…
悪い話ではなかっただろうに
こうまでして手を引かせたいとは…

苦ではありません…
全て、夫が残してくれたものです…
夫が作ったお店でしっかり稼いで
借金を返していく…
それが…私の守りたい生活なんです

再婚がどうたら言っていたのも
夫のためというわけか…
まあ、私はそんなものに興味はない
手を引いてほしければ私を
満足させることだ…



ほ、本当にこんなことであつた話でなかつたことにしてくれませんか？

くく…私もだいぶ性癖が歪んでしまつてね…自分で屈した女でなければ興奮できないんだよ…

田舎の喫茶店を買収するつまらない仕事だと思つて来てみれば…そこにいたのは私の性癖に刺さる女だつたんだ旦那がいれば尚よかつたが…未亡人というも初めてでそるものがある…

私にとっては、あつた話でなかつたことにする価値のある女なんだよ…

はあ…はあ…はあ…ぜ、絶対…ですよ…



もぎゅ
しゅ
は
は
は

このままじゃ解決策はない...
この人に従えば...お店も...
今までの生活も守れるんだ...



もう...誰にも触らせることがないと
思っていた自分のカラダ...
でも...これで全てが解決するなら...







くく...派手にイッたな
旦那を亡くしてから一度も
カラダを満足させてやって
いなかったようだなあ...

性欲を蔑ろにするのは
よくないと思うぞお...?

だつて...今まで気にしなかったな...
息子とお店を守るために...
毎日がむしやりに働いて...
それでも上手く行かなくて...

自分のことなんて...
ここ何年も考えていない...
だから...平気だと思つたのに...
もう...感じないと思つたのに...

こんな...
一度会つただけの良く
知らない人で...私...

はあ、

はあ、

はあ...

はあ、

はあ、

はあ...

はあ、



夫以外のおちんちんを……
啜えちやうなんて……

夫を亡くして……

二度と味わうことはない
思っていたのだ……

てんぱん

てんぱん



その様子じゃ男の味も
忘れてしまっただろう？
くく… たつぷり味わうといい

私……
味わうなんて……

ち……大き……

ん

ん



ああ……
熱くて硬くて……
独特な男の人の……

懐かしい……味……

んぱん

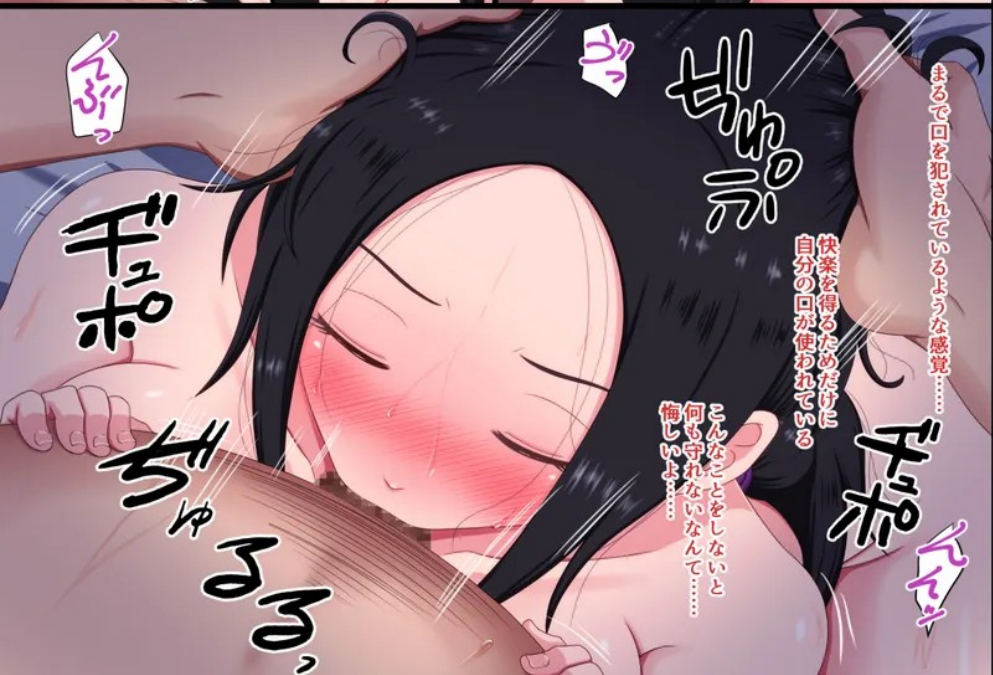
んぱん

こんなことしちゃダメという
気持ちと...こうしなければ
他に解決策がない現実...

あなた...今だけは私のことを
見ないで下さい...
あなたの残したお店を...
あなたと私の息子との生活を...
私はどうしても守りたいんです

私が女になることでそれが
守れるのなら...
私は.....

そうだ...いいぞ...
上手いじゃないか



まるで口を犯されていくような感覚.....

快楽を得るためだけに
自分の口が使われている

こんなことをしないと
何も守れないなんて...
悔しいよ.....

はあ、はあ、いいぞお……
そろそろ男の味をたっぷり
味あわせてやれそうだ……ッ

んっ、んっ、んばあっ！
わ、私……口の中で受けた
経験はあまり……んんッ！

残念ながら私は女の口の中
ぶちまけるのが好きなんだ……
私に屈した証にもなる……！！

屈した……証……
確かにそうかもしれない……
こんな方法でしか守れない
ダメな私だから……

うっく……
で、出るぞお……ッ

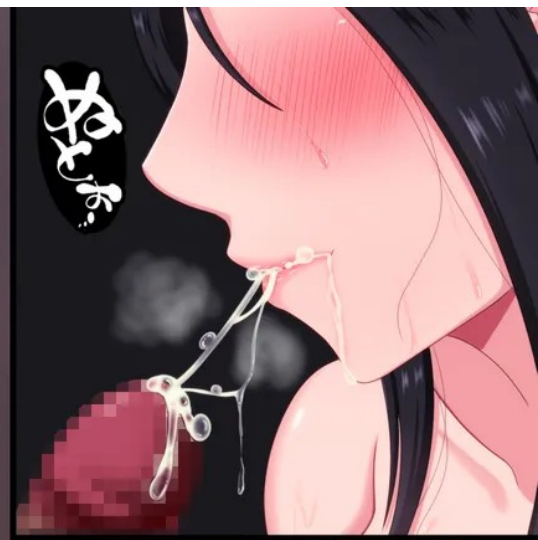






生臭くて...むせ返るような
精液の味.....
初めて夫以外の男の人を
射精させてしまった.....

う.....ほっほっ!!
はあ、はあほっほっ!!



くく...たっぷり味わえ...
これが貴方を助ける男の
精子の味だよ.....

す、すいません……
そろそろ帰らないと……
息子を一人で寝かせて
いますので……

まあ、いいだろう……
しっかりと私に尽くす
姿勢は見えたからな……
とりあえず買収の件……
上に報告するのは待とう

ま、待つというのは……
これで……なかったこと
なるのでは……

馬鹿を言うんじゃない……
この程度のことですこま
でするわけがないだろう？
……わかるな？

……はい
また……来ます……



銀行の知り合いに聞いたのですが
この店を買取しようとしている
企業がいたようですねえ…

どうやらその話は保留になっている
ようですが…私で何かお力に
なれることがあれば仰って下さい

ほほ…私は塔子さんの為ならば
何だってしますからね…
なにせ、貴方との再婚を心から
望んでいるのですから

は、はい…ありがとうございます
でも、そのお話はなくなる方向で
交渉をしていますので…

ほう…銀行によれば買取された方が
店も銀行も助かると言っていましたか…

えええ…夫が亡くなって業績は
落ちる一方なので…それはそうですね…
でも、私はどうしても今の形でここを
残したいので…無理を言ってお話は
受けられない方向でお願いしています

もしお困りなら私が援助を…

だ、大丈夫です…!

やっぱり馬場さんの援助を
受けたら再婚を断れなくなる…
だから…自分でなんとかしないと…

自分で...なんとか...
これが...その手段...
でもこの人が求めているのは
私の肉体だけだから...

私が好きなわけでも、再婚を
望んでいるわけでもない...
ただ欲を満たすためだけの行為
私にとっては、その方が都合が
よかった...



ずいぶんとケツの穴を舐められるのが好きらしいなあ……今のはほぼそれだけでイツたんじやないか？

はあ……はあ……そ、そんな……私、好きなんかじゃ……

でも……確かにイツちゃった……今も甘い感覚が全身にとろとろと行き渡っている

思った以上にエロい女のように……旦那を失って性欲を満たせなくなっただけで……かなり欲求が溜まっているんだよ……

そんなこと……ありません……これは……あのお話をなかつたことにしてもらったためだけの……



はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



今日はコイツでたっぶりと
精子を搾り取ってもらおうか...



は...

くく...旦那はこんな
エロい体の女を手に入れて
何をやってたんだ...?
宝の持ち腐れじゃないか...

ば...ばい...?
私...おっぱいでなんて
やったことありません...

は...

さ...パイプリーで
ヌいてもらおうか...

おっぱい



クニニニ



ちゅ

ちゅ

ちゅ

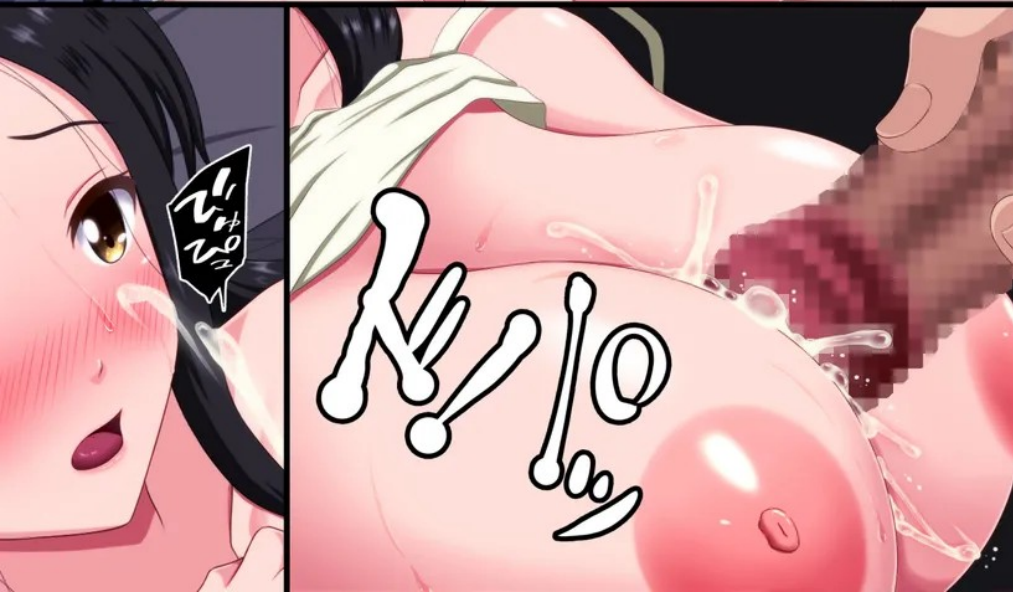
おち...これはなかなか...
まさにチンポを挟むために
あるような乳だな...

ん...や、やだ...
こんなの...いやらしい...

くく、息子を育てて役目を
終えてしまうのは勿体ないな...
これからは私の精子を搾り取る
ために使うといい...!!!

ん、ん、ん、そ、そんなの
嫌です...おっぱいは
そんなことの為に
あるんじゃない...

そんなことの為にあるんだよ
その証拠に...もうこの乳で
射精しそうなんだからな!





いい顔だ……一応
私から逃げないように
撮らせてもらうぞ……

あーん

ぐわん

ぐわん

もう……逃げられない……
こんな写真が出れば……
この狭い町では私たちの
居場所がなくなってしまうから……



くく、精子にまみれ…男を満足させようとしている貴方はまんざらでもなさそうだ……もうずっと、そういう欲を我慢して抑えていたのだとよく分かる……

いくら旦那を想ったところでこの欲望は満たせまい……しっかりと存在する男のチンポでなければその欲を満たすことは不可能なのだからなあ……

旦那に悪いと思うことはない……女として正常なことさ……たっぷりと男を味わうといい……

この人の言うことは……全くの外れというわけではない

久しぶりに男を感じて……胸の奥からドロドロとした欲望が滲んでいるのは事実だった

もう二度としないと思っていた行為男性と交わることはないと思っていたのに……形はどうであれ……交わってしまった男を……感じてしまっている……





はぁ…

ふうう…やはりイイ女だと
精子もよく出るわ…
まだ吐き出させないぞ…
しっかり味わえ…

ねっとりとした…男の体液…
息をするだけで生臭い味が
回っているばいに広がっていく…

夫の精液だってこんな風に
味わったことはない…
この人が…初めて…

はぁ…

くく…次に会うときまで
その味を忘れるんじゃないぞ…
私を見ただけで精子の味を
思い出すようにしてやるからなあ…

んんん

んんん



お店と生活を守る為……
そのために始まった富田さんとの
肉体関係だった……

でも……何回も肌を合わせるたび……
何回も精液を浴びるたび……
私の中に、男を求める自分が
いることに気がついてしまう
もう何年も放置してきた女の部分……
それが体を重ねるたびに顕に
なっていくようだった

いつも夜中に一人にして
ごめんね……幸宏……

富田さんは、不自然なぐらい
セックスを求めては来なかった
お口だったり、おっぱいだったり……
私の体を使って射精して終わる

でもお母さん……行かないや……

こういう場合……私には断る術が
ないんだから真っ先にセックスを
求めてくると思っていたのに……

この人……セックスという行為には
興味がないのかな……？
そんな風に思うようになっていた



くく、ケツの穴を舐めてほしくて
しつかりと風呂に入ってから
ここへ来たな...?
そんなことをしなくても舐めて
やるというのに...

ん、い、嫌です...ああんっ!
汚いままそんなところを
舐められるなんて...
私...んんっ!

子供を置き去りにして
ケツの穴を舐めさせに来る
なんてダメな母親だなあ...
だがそういう女のケツは
美味しいものだ...

な、舐めさせにきたわけじゃ...
こうしないと...お店が...

くく...良い言い訳だなあ...
店のためならば旦那に対する
罪悪感も薄れるもんなあ...



30分後

くく、ケツの穴がふやけてきたぞお？
何度でもケツでイけるんだなあ

はああ、はああ、だ、だめえ……
も、もう許してください……
頭の中……おかしくなりそう……

んんん？
どうしておかしくなるんだ？
舐められるなんて嫌なんだろ？

い、嫌ですけど……でも……
こんなにされたら……んんっ！
お、お願いします……もう……
お尻の穴は許して……

れるれる、ぬちぬちぬちゆ
れりゆれりゆれりゆ……

つ、次は私が……私が……
富田さんのおちんちんを
舐めますから……

舐めますから……？

い、いえ……
な、舐めさせて……下さい……



んん…随分と勘を取り戻した
ようだなあ…それとも
私のチンポに愛着が湧いたのか…
気持ちいいぞ…塔子…

ん、ん、ん、な、名前…だめ…
それは…夫だけの…
ぢゅぽ、ぢゅぽ

もういない男だろう…？
名前を呼ぶことすら出来ん男だ…
私は何度でも呼べる…
なあ、塔子…生身の男の方が
自らの欲を満たせるだろう…？

あ、あなたとこういうことしても…
心は満たされませんから…
体の反応は仕方のないことです…
か、勘違いを…しないで下さい…
私は…お店のために…

くく…もう何度もこんな姿を
あの世の旦那に見せておいて
まだそんなことを言っているのか
旦那ももう気付いているぞ…？
塔子には生身の男が必要だと…

ぢゅぽ、ぢゅぽ
そ、それ以上は言わないで…

だったら私を黙らせてみる…



おおお……くく……
なかなか大胆なことを
するじゃないか……

お願いですから……夫のことは
言わないで下さい……
分かっているんです……私も……
でも私……今さら……

生きている人間に性欲があるのは
当たり前なことだぞ、塔子……
それを隠したり我慢したりする方が
不自然なことなんだ……

もう私には見せてもいいだろう……？
くく……お互いのケツの穴の味まで
知った仲じゃないか……
なあ？塔子……

今握っているモノを欲しがっている
場所があるはずだ……
生身の男を感じたいと思っ
ているだろう？
私は分かっているぞ、塔子……

はあ……はあ……はあ……
はあ……はあ……

ほちゃほちゃ
ほちゃほちゃ
ほちゃほちゃ
ほちゃほちゃ





くく…そうだ…それでいい…
気に病むことはない…
この世にいない男では絶対に
満たすことができない欲なんだ

別に情があるからするんじゃない…
お互いに欲を満たすためだけに
するだけさ…
塔子にもすっかりとした言い訳が
あるだろう…？

店を守るために仕方なく…とな

は…

お店の…ため…
そう…これは…
お店の為…

は…

は…

でも、本当は分かってる…
男を感じて…おまんこが
疼いてしまって仕方ない…
中を…グチャグチャにかき回して
ほしいという感情が…
自分の中にあること…

は…

は…





おお……く……思ったよりも
縮まるじゃないか……!

ああ……入ってる……
夫以外のモノが……
私の中に……入ってる……

夫を亡くした時点で……
二度としないと思っていた行為

この人に心を許した
わけじゃない……

でも……
心を解されてしまった……

あ……

あ……

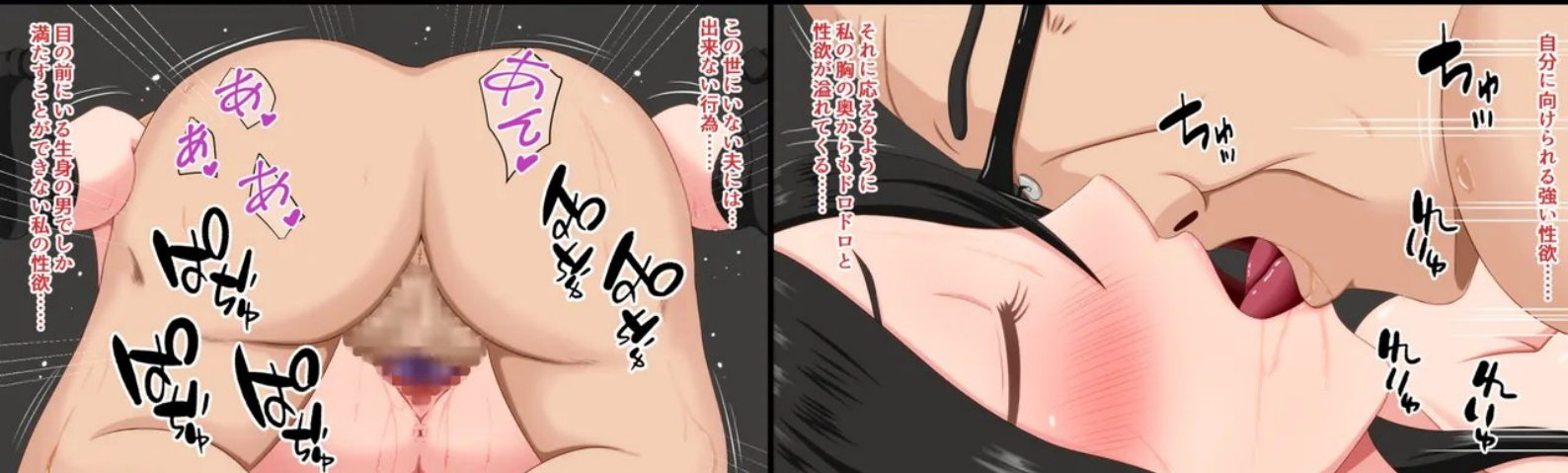
あ……

あ……

あ……

あ……

あ……



自分に向けられる強い性欲……

それに応えるように
私の胸の奥からも「ドロドロ」
性欲が溢れてくる……

この世にいない夫には……
出来ない行為……

目の前にいる生身の男でしか
満たすことができない私の性欲……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……





夫以外のおちんちんでイカされ...
夫以外のおちんちんを自分の
おまんこでイカせた.....

二度と得られないと思っただ...
この女としての満足感.....

これまで見なすようにしていた
自分の欲望が、これをキツカケに
下口と抑えられなすほどに
溢れ出していくのを感じた

くく...ようやく男の良さを
思い出したようだな...
ずっと我慢していたんだ...
たまらないだろう？塔子...

もっと満たされたい...
空白の期間を埋めるかのように
私は男を求めてしまった...

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

ぬん



セックスって……
こんなの気持ちいい
ものだったっけ……？

だよねっ♡

おんおんおん

おんおんおん

はぁ、はぁ、その乳に
中出しするぞおッ！
塔子……！！

おんおんおん
おんおんおん
おんおんおん

たぶん……この人が上手なんだ……
女の扱い方……よく知ってる……
欲しい時にキスしたり……
私が激しくしてほしいときも……
たぶんバレてる……

おんおんおん
おんおんおん

おんおんおん

おんおんおん

おんおんおん

おんおんおん

おんおんおん





はーん

はーん

精子の...匂い.....
男が満足した証.....
私が...女として扱われた証...

はぁ...

はぁ...

はぁ...

はぁ...

だめ.....
いやらしい気持ちか...
止まらないよ.....

はぁ...
はぁ...
はぁ...





そ、そろそろ帰らないと…

くく…いいじゃないか塔子…
息子もどうせ朝まで起きないだろう？
せっかくここまでしたんだ…
もっと愉しんでいくといい…

べ、別に愉しんでいたわけでは…
少し…気が迷っただけです…
だから…これ以上は…

こっちはもう勃っているんだ…
こんなイ女、いくら抱いても
飽きそうもないよ…

い、いけませんよ富田さん…
帰らないと…朝まで息子を
家に一人にさせるなんて…
私…出来ませんよ…

んっ
しゅっ
んっ

結局：私は富田さんの部屋で朝を迎えてしまった……

セックスをして…抱き合いながら体を休ませ…キスを繰り返して…そして、またセックスに夢中になる

いけない母親だねえ……息子を置き去りで朝までセックスに夢中になるなんてなく……とんでもなくスケベだったぞ…塔子……

い、言わないで下さい……どうかしてはいたんです……私も……自分で自分を止められなくて……

数年分の性欲が溜まっていたんだ……無理もない……随分とスッキリした表情をしているぞ……どうやら私のチンポの具合も良かったらしいな……イク姿が今も焼き付いているよ

気がついた頃には外が明るくなっていた

私は……自分がこんなになってしまふほど、心の奥深くに性欲を溜めていた……認めたくないけど……朝までしてしまった事実がそれを物語っている……

や、やだ……忘れて下さい……どうしよう……私……夫以外とはしないって……あれだけに決めていたのに……

くく…無理だよ…
死んだ男が生身の男に
敵うわけがない…
塔子もそれに気付いたはずだ…

久しぶりの男の味が
たまらなかつたんだろう…？

…私…元からこんなに
性欲がある女じゃなかったのに…

我慢し続けたこと…それと
年齢を重ねて今がちょうど
性欲が高まるピーク時期だろう…
塔子から溢れるフェロモンも
凄まじかったからなあ…
私も朝までセックスなど
そうそうしないからな…

え…

それほど女の魅力が
あったということだ…
もう存在しない旦那の為に
自分の欲を我慢することはない…
私が満足させてやるぞ…塔子…





数日後

いや...そんな知らせは
出ていなかったはずだが...
まあ、仕方ないな...

おや...今日は塔子さんの
店は定休日だったか...?

んっんっんっ……お、お店……
開けないと……んんんっ!

んっんっ

んっんっ

んっんっんっんっ
んっんっんっんっ

くく、美味そうにしゃぶりついて
おいて何を言っている……
私を見るだけで精子の味を
思い出すようになってるんだらう?

んっんっんっ
んっんっんっ

んっんっ

この前は朝までセックスして……
ゴムの精子を口に入れて味あわせて
やったもんなあ……
今日は直に味あわせてやるぞ……ッ!!







うっく……
と、塔子……そのコップを
こっちによこすんだ……!!

コ、コップ……?
ど、どうして……?

いいから早く……ッ
出してしまうではないか!

はぁ、

はぁ、

はぁ、

はぁ、

はぁ、

はぁ、





ふああ……まあいいや……
小便して寝よう……

ふああ……あれえ……？
母ちゃんいないのか？



くく...どうした？
息子を置き去りにしているんだ...
そろそろ帰った方がいいんじゃないか？

は...
え...でも...でも...

でも...？なんだ...？
ハッキリ言わないと
私にはわからないぞ

はあ...はあ...む、むず痒いの...
おまんこ...富田さんのおちんちんで
かき回してほしい...です...

はあ...

はあ...

くく...なんだ、セックスをして
ほしかったのか...
してやってもいいが...
またゴムはしないぞ？

は、はい...
は、はい...
中に出さなければ...
いいですよ...

はあ...



おおおおお……ッ
こりや我慢出来ん……!!

だっだめええッ!!
中は……中はだめえッ!!

だっだめええッ!!
中は……中はだめえッ!!

だっだめええッ!!
中は……中はだめえッ!!





くく…ほれ…あの世にいる
旦那にしっかりと見せてやれ…
もう塔子は私の女だ…

あ、あなた…
ごめんなさい…
本当にごめんなさい…

私…もうセックスが出来る
生身の男から
離れられそうもありません…